

街道を歩く



安土城大手門道

安土城址

天下統一を目指した信長が天正4年(1576) 海拔199m安土山に3年の歳月かけて築城 高さ13mの石垣の上に5層7階、高さ32mの 天守閣は当時の最新技術を集めた建築という 3年後の天正10年(1582)焼失。今は往時を偲 ばせる石垣、礎石が残るのみ。 築城と共に甲賀より移された摠見寺は安政 元年焼失。寺院跡に残る三重塔、仁王門は 築城当時の建物、國重文。

セミナリヨ跡

天正9年(1581)イエス会宣教師 ルカ・ナチが信長の許可を得て 日本最初のキリシタン神学校建てる



安土駅前信長像



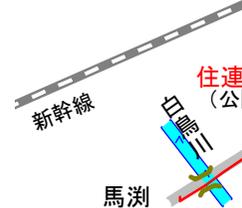
八風街道分岐点道標

武佐宿

(愛知川宿より2里半)いちば 佐々木氏の頃より宿駅があり市庭が開かれ 八風街道の起点。中山道から近江八幡 への道でもあり賑わったという。 “武佐枮”武佐墨”は名物。後者は早く途絶 枮は公定枮より小さく8合余、秀吉によって 統一されるまで佐々木一族によって支配さ れる。(本陣1、脇本陣1、問屋2、旅籠23)

伊庭貞剛屋敷跡

(クスノ木の太木が残る) 貞綱は国学者西川吉輔に学び維新政府 の役人となるが、叔父の勧めで住友に入社 愛媛県新居浜の別子銅山の経営を立直し 住友中興の祖となる 伊庭家は佐々木六角氏の家臣 であったが六角氏と共に 衰退



住連坊首洗い池

(公園の中)

供養塚古墳

住連坊の墓

安土城址



中山道:五個荘一武佐一馬淵

朝鮮通信使街道:安土一黒橋(近江八幡)

安土考古学博物館

信長の館



祭神少彦名命、徳天皇、宇多天皇他 古代蒲生地方の豪族狭狭貴山君の祖神を 祀ったのが始りという。近江源氏佐々木氏 の氏神。老杉の森、茅葺の楼門趣深い社殿



安土町役場

鉄砲で有名な根来衆、根来重盛は 和泉国根来寺の僧であったが秀吉の 焼討ち遭い家康の家臣、3450石の旗本 となる。寛永10年(1633)東老蘇688石 西老蘇13石を拝領 ここに陣屋があった

近江源氏佐々木氏の居城 京極、六角に分かれた後は 本家六角氏居城。築城定かた でないが応仁2年(1468)六角 高頼が家臣に命じ築城と伝え

律令時代の神崎郡衛推定地 祭神日本武尊、弘文天皇他

大郡神社

ういろを売っていた 草葺き民家 石塚 片山半兵衛宅 大名の小休所

近江商人の里 モニュメント

片山半兵衛宅 江戸初期麻布を扱う商家 近世には大名、公家が休憩 したという

老蘇の森

孝靈天皇5年近江国で地面が裂け水が湧き 湖となる。これを防ごうと石辺大連が松や杉 の苗を植えたところ神助により森となり地面 が固まったという。大連は神壇をつくり神恩 感謝したという。大連は百歳を越えても壮年 であったので老蘇といったという 奥石神社(祭神天津児屋根之命) もとは織山の磐座を拝む祭祀場であった のが里宮となり神社となった。鎌宮と言わ れていたが大正9年奥石神社と改称 日本武尊が東征の折、弟橘姫が走水(浦賀) で入水の時身籠っていたので靈魂は老蘇の 森に留まり女人の安産を守るといって入水 したと云う。安産の宮としても知られる 本殿信長寄進、拝殿根来新右衛門造営 (元禄15年)(本殿國重文)



奥石神社

牟佐神社

佐々木氏の頃より宿駅が あり木場が開いていた市神 として事代神を祀る

牟佐神社

武佐町会館 (脇本陣跡) 旧武佐分署(魚友楼洋館) 旧旅籠中村屋 松平周防陣屋跡 武佐町

本陣門

西宿 西の高札場跡 伊庭貞剛屋敷跡 武佐町

長光寺

ハナ/キで知られる 柴田勝家が決戦の勝利を期し 溜めて置いた水瓶を割って士気 を鼓舞したとの伝え。別名観劇山



長光寺

西福寺

泡子地藏がある

東光寺

六角義賢に仕えたといわれる 書道家建部伝内を祀った 伝内堂がある(秀吉の祐筆)

西老蘇

この地に村井藤斎という人が茶店を構え 妹が茶を出していた。ある日1人の僧が 来てお茶を飲んだ。妹は僧に恋し僧の 残したお茶を飲んだところ懐妊し男子を 出産する。それから3年後僧が通りかか ったので3年前のことを話すと僧はその 子に息を吹きかけた、すると泡になり 消えた。僧曰く、西方の”あら井”の池の 中に地藏があるこの子のためにお堂を 建て祀れ。今西福寺にある

住連坊首洗い池、住連坊らの墓

鎌倉時代の浄土宗の僧侶、御所勤め女官2人が 住連坊らの影響で帰依し、夜間寝所に僧を招いた との疑念が出たので上皇は怒り、法然上人は流罪、 弟子安樂坊は京都六条河原で、住連坊は出身地 馬淵で処刑される。古墳は中期古墳、直径53m 円墳。頂上部に住連坊と安樂坊の墓と言われる墓 がある、江戸時代のもの



住連坊首洗い池